

▶ 第3章

中国における「軍民融合発展戦略」の展開 ——多用途先端技術と国防科学技術工業

京都先端科学大学 准教授

土屋 貴裕

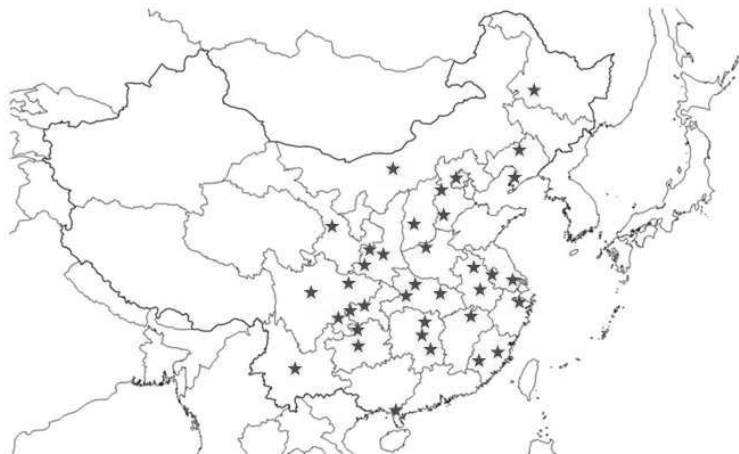
【ポイント】

- ▶ 中国の「軍民融合発展戦略」は、2019年以降、表立った言及がなされなくなり、中国共産党第20回全国代表大会の報告でも言及されなかった。しかし、改正された党規約では引き続き国家戦略の1つとして明記され、経済発展と国防建設の一体化を引き続き進めている。
- ▶ 中国は、「イノベーション駆動型」の経済成長へのモデル転換のために、「軍民融合発展戦略」の下で多用途（マルチユース）先端技術の研究開発とその産業化を進め、国防科学技術工業体系とその配置を最適化し、国防科学技術産業能力を強化することを目指している。
- ▶ 中国における民生技術の軍事転用（スピノン）は、必ずしも軍用規格の水準にあるハイエンドなものでもなくも行われている。AI技術を用いた監視カメラやブロックチェーン技術の公的利用や軍事利用を積極的に推進するなど、民間での利用を目的とした先端技術を軍事・国防に転用したり、行政への利活用を積極的に進めたりすることで、国防能力および党の執政能力の増強を目指している。



注目データ

中国の国家新型工業化産業モデル基地（軍民結合・軍民融合）



資料：中華人民共和国工業情報化部ホームページを基に作成